

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492200819	事業の開始年月日	平成30年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	株式会社 リフシア		
事業所名	リフシア大庭		
所在地	(〒251-0861) 神奈川県藤沢市大庭5142-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	通い定員	名
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
自己評価作成日	R3. 3. 26	評価結果 市町村受理日	令和3年8月27日
		エント数	2エント

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>近くに舟地藏公園があり、天気がいい日はみなさんでお散歩に行ったり、おやつを食べに行ったりしています。アクティビティやリハビリに力を入れており、出来る限りご自身の力で出来る事を維持する、生活支援型リハビリケアを行っております。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月31日	評価機関 評価決定日	令和3年7月5日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 事業所は、小田急江ノ島線善行駅、湘南台駅、藤沢駅、または、JR東海道線辻堂駅からバスで、舟地藏停留所から徒歩5分程の畑地が残る住宅地に位置している。周辺は緑が多く、自然豊かな環境で、舟地藏公園や城址公園、引地川親水公園が徒歩圏内にある。平成30年3月に開設した、鉄筋コンクリート造り2階建て、1、2階の2ユニットのグループホームである。1階には小規模多機能型居宅介護を併設している。</p> <p>【小規模多機能型居宅介護との連携】 管理者は、小規模多機能型居宅介護の管理者を兼務している。事業所は、小規模多機能型居宅介護と、防災訓練や、社員会議（全体会議）を合同で開催している。合同開催などの各種交流が、お互いの業務を学ぶ機会になっている。職員の交流により、多忙時など困った時の相互の業務支援が円滑に行えている。小規模多機能型居宅介護から、運動器具（エアロバイク、手漕ぎマシン）やリフト浴用の入浴機器の貸し出しを受けている。小規模多機能型居宅介護と兼務の看護師が週6日出勤して、職員や利用者の安心につながっている。また、小規模多機能型居宅介護の利用者が、入居したケースがある。利用者には、様子が分かっているため安心して入居してもらえるというメリットがある。</p> <p>【安心して生活できる医療体制】 従前のかかりつけ医も含め、全員が内科の訪問診療を受診している。訪問診療時には、事業所の看護師と薬剤師も同席して情報共有している。診断結果は、事業所の看護師が聞き取り、看護記録に記載し情報共有している。専門医への受診結果は、付き添った家族から職員が内容を聞き出し、連絡ノート、看護記録に記載し情報共有している。医師、医療機関と事業所の看護師、薬剤師、職員が効率的に連携し、利用者が安心して生活できる医療体制となっている。看取りを行う場合は、家族、医師、看護師と職員が連携し方針を共有して、支援する体制を整備している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	リフシア大庭
ユニット名	1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員は入社時に理念について学ぶ機会を設けている。非常勤職員の方々には管理者より理念について説明を行っている。	「心を添えてともに生きる」を柱に、地域社会への貢献、地域での在宅生活支援、人間性尊重からなる法人の理念を、事業所の理念として掲げている。理念は、事務所や休憩室に掲示して周知している他、研修や全体会議で確認している。理念に基づいた年度の事業所目標を設定している。今年度は「人間性を尊重し、現在の生活を継続していくため、生活支援リハビリケアを新しい価値あるサービスの基軸として行っていく」という趣旨の目標を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防により、今現在地域との交流はあまり持っていない。	自治会に加入して、回覧板で地域の情報を得ている。新型コロナ禍以前は、自治会のお祭りに職員と利用者が参加したり、地域の避難訓練に職員が参加したり、地域包括支援センターの支援を受け、事業所で地域交流カフェを開催するなどしていた。また、三味線、太鼓、歌、舞踊や草むしりのボランティアを受け入れていた。新型コロナ禍終息後には、地域交流室を、地域住民の会議や緊急時の避難場所として提供するなどの活用を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様と寄り添いながら行っている		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年に入り、ほとんどが書面開催となっており、話し合いの場面が持っていない</p>	<p>運営推進会議は、2 か月ごとに家族、自治会長、民生委員、市介護保険課と地域包括支援センターの職員が出席し、開催している（今年度は、書面開催）。会議では、利用者や職員の状況、活動報告、事故・ヒヤリハット報告や情報・意見交換を行っている。事業所の天井にカビが生えてしまい工事することを報告した際、参加者から「生活空間に孢子が飛ばないように留意したほうが良い」とのアドバイスがあり、対策を行い問題なく完了した。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>何かあれば、連絡を取るようになっている。</p>	<p>市の介護保険課には、市から提供された情報で分からないことや、介護保険の手続きなどについて電話で相談している。また、職員が、利用者の要介護認定申請代行で市役所を訪問することがある。今年度は、マスク、消毒液、フェイスシールド、手袋などの在庫管理などについて、市や県などと連絡を取り合い、消毒液や、マスク、エプロンの提供を受けた。管理者や計画作成担当者が、行政主催の介護保険関連の研修に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会の中に身体拘束研修を通じて勉強会を開催している。	身体拘束ゼロに向けた指針を定め、身体拘束適正化検討委員会を3か月に1回開催している。委員会では、行動抑制対策や、次回の研修の内容、スピーチロックなどについて話し合い、ケアの質の向上につなげている。年2回の研修では、身体拘束となる行為や、身体拘束が与える影響などの確認を行っている。玄関、ユニット出入り口は夜間(19:00～6:00)以外、施錠は行っていない。外出願望の強い利用者には、職員が付き添い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル、事故防止委員会を通じて学ぶ機会を持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明を行い、契約を行っている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱は設置しているが、直接相談が多い。改善に向けた取り組みはしている。</p>	<p>家族の意見・要望は、運営推進会議、来訪時、ご意見箱、電話連絡やメールで把握している。管理者は、介護計画の更新や利用者の健康状況の報告などで、家族とは毎月電話で話すようにしている。家族の意見・要望は、話をしっかり聞いて受け止め、改善に活かすようにしている。新型コロナ禍で面会を禁止している中、家族からの「利用者の顔が見たい」という要望に対し、ビデオ通話の活用や窓越しの面会を実施した。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、各月での社員会議を行っている。	職員の意見や提案は、管理者が、日々の会話や毎月のユニット会議、隔月の全体会議・個人面談で聞き、運営に反映している。法人に相談室があり、職員が各種相談できる仕組みを整備している。管理者は、ネガティブな意見でも否定せず、受け止めるようにしている。問題がある場合は、アドバイスしている。職員から「利用者のADLや既往歴などが、すぐ簡単に確認できるものが欲しい」との要望があり、簡単ADL表を作成した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を各月で行いながら意欲を引き出せるよう関わりを持っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として目標管理などの制度があり、個別に作成し育成のツールとして使用している。		

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部での勉強会等、参加を促している。		
----	--	--------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受入時のアセスメントをユニットで共有して早期の信頼関係構築が出来るよう意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受入時、その都度、ご家族様との相談事を聞き取りながらその情報を現場と共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービス内容や支援は受入時、1か月間のアセスメント期間を経て再度見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を保てる関わりを意識している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議などでご家族様の意見を聞く機会を持ち、時折り電話連絡などによって関係の構築をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていない	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。電話、手紙の取次ぎの支援を行っている。利用者が愛読している新聞の購読や、家族が持参する馴染みのヨーグルトやお菓子などの取次ぎを支援している。新型コロナ禍以前は、友人や知人の面会時には、居室や地域交流室に案内し湯茶でもてなしていた。また、毎週土日に帰宅する利用者もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや、会話を通してコミュニケーション機会を確保している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて持っていく方向で検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	関わりの中で支援内容は随時検討変更している。	職員は、入居前に自宅や病院などを訪問して住環境や生活歴を確認している。入居後は、日頃の会話の他、入浴時などでの1対1の会話を大切にして、思いや意向の把握に努めている。意思疎通困難な利用者には、食事の時などの利用者の行動・表情や、家族からの情報から推測し、支援につなげている。把握した情報は、連絡ノートや情報共有シートで共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	完全ではない。受入時、最大限の聞き取りは意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを行える支援を行うよう指導している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスを行い、その時の状況に即した計画内容になるよう、現場、計画作成担当で意見を交換し作成している。	介護計画は、アセスメントを踏まえ、毎月のユニット会議のカンファレンスでモニタリングを実施し、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。アセスメントは、計画作成担当が毎月行っている。計画は、状態に変化があれば随時見直している。介護記録の項目を介護計画の支援項目に合わせることにより、計画とケアの連動を図っている。介護記録などの記録に関する研修を実施して、記録の質の向上を図っている。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>主観を交えない記録をとり、その状況を共有している。</p>		
----	---	----------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別での柔軟なサービス提供はご家族様とも連携して行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりが十分に持てていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療先は紹介が行いやすく出来るよう2つの提携先を用意。元々のかかりつけ医の方が良い場合はそちらを優先させて頂いている。その後も、関わりはもち進めている。	従前のかかりつけ医の訪問診療を受けている2名を除き、利用者全員が、2か所の医療機関から選択した内科の協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。診断結果は、事業所の看護師が聞き取り、看護記録に記載して情報共有している。眼科、皮膚科などの専門医への通院は、家族が付き添っている。受診情報は、職員が家族から聞き取り、連絡ノート、看護記録に記載して情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週6日の看護職員配置を行い、緊急連絡体制も作成している。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	行っている。		
----	--	--------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係機関やご家族様とは受入時から説明を行いながら、訪問診療などとも連携して行っている。	入居契約時に「看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。看取りは「看取り介護についての同意書」で家族の同意を得て実施している。開設以来2件の看取り実績がある。外部研修を受講した職員が講師となり、ターミナルケア研修を行っている。看取りは「看取り介護計画書」を作成し、家族やかかりつけ医、看護師と連携し支援している。看取り後は、看取り振り返りミーティングを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制については構築できている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域とのつながりは十分ではない。災害対策については自事業所内、法人での訓練を行っている。	職員は、災害・緊急対策研修を受講している。8月と1月に日中想定の実施している。1月はAEDの使用訓練も実施した。地震を想定した訓練は実施しているが、水害を想定した訓練は実施していない。新型コロナ禍以前は、地域の避難訓練に職員が参加していた。非常用備蓄品は、法人が在庫や消費期限などを一括管理している。食料、飲料水は3日分確保している。また、停電対策として、自家発電機を備えている。	日中を想定した防災訓練は実施していますが、職員の少ない夜間を想定した訓練は実施していません。年1回は、夜間想定の実施することが期待されます。また、水害が増えている中、水害を想定した防災訓練を実施することも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育をしている。	職員は、接遇ルールブックで接遇について学んでいる。法人と事業所に「接遇委員会」を設置して、言葉使い、身だしなみ、接客対応姿勢などについて話し合っている。利用者の名前は、名前に「さん」か「様」を付けて呼んでいる。フロアで介護記録などをタブレットに入力する際は、周辺に十分配慮して行っている。職員の会話や行動が、利用者を傷つけることがないか目配りし、気付いたことは、管理者が個別面談などで指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントを行いながら、自己決定場面や有する能力把握を行えるよう意識して行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分ではない人員の中で出来る限りのお客様本位を意識してケアを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っている。			

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントを行い出来る範囲は行っていただいている。	ご飯と汁物は、事業所で調理している。副菜は、同一法人の医療機関・施設向けの「栄養サポート付き配食サービス」を利用している。利用者は、テーブル・食器拭きを手伝っている。利用者の状況に合わせ、やわらか食、えんげ食、普通食を提供している。お誕生会はケーキを提供して祝っている。クリスマス、正月などの行事の時には特別食を提供している。利用者は、食事レクリエーションで、たこ焼きやケーキ作りを楽しんでいる。	
----	----	--	----------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	把握を行いながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科とも連携しながら口腔状態の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎月の会議の中で相談しながら、行っている。	排泄管理表で排泄パターンや特徴を把握し、利用者の様子や仕草をとらえてトイレ誘導している。誘導の際は、小声で話しかけている。また、失敗した場合は、周りに気づかれないようにさり気なく対応するなど、羞恥心に配慮している。夜間は、基本的には睡眠優先であるが、定時誘導など個人の特性に合わせた支援を行っている。病院からの退院時はおむつだった利用者が、支援の結果、リハビリパンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	間隔の把握を看護とも連携しながら見て対応をしている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>お客様間で入浴時間をシェアする為、曜日や時間帯は目安として決まっているが、出来る限り、入浴を楽しめるように入浴剤や湯舟に浸かる時間などに配慮させていただいている。</p>	<p>週2回午前中の中の入浴を基本としている。曜日で入浴者を仮決めし、当日体調などを考慮して入浴順を決めている。入浴を好まない利用者には、声掛けで入浴を促し、無理強いせず自発的に入浴してもらうようにしている。リフト浴があり重篤な利用者でも入浴が可能である。体調の悪い利用者は、看護師に相談しシャワー浴や清拭などで対応している。利用者は、職員との会話や、菖蒲湯、柚子湯を楽しんでいる。また、入浴剤も利用している。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	関わりを持ちながら入床を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のシートは職員間にて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様と以前のご様子などを聞き取りながら楽しみある日常が送ることが出来るよう工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが流行ってからは控えているが、リハビリ目的の近隣へのウォーキングなどを行っている。	新型コロナ禍でも、月1回程度、体調維持のため近くの公園まで散歩に出かけている。散歩は、車椅子の利用者も一緒に出かけている。2階のベランダや庭で外気浴や日光浴をする利用者もいる。従来、初詣や花見に出かけていたが、今年度は、車の中からの花見に留まっている。利用者の外出歴を支援経過記録で把握し、偏りがないようにしている。新型コロナ禍以前は、家族の支援で、買い物や、外食、通院などに出かける利用者がいた。	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は控えていただいている。		
----	---	-------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の訴えがあった場合にはこちらがご家族と間に立ちお話し出来るよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる飾りなどを皆様と作成しながら、空間を温かみある空間にしている。	共有空間は、明るい日差しが差し込みゆったりしており、車椅子の動線も確保されている。リビングの机は台形で、並べ方によって用途に応じた形で使用できるようになっている。温度・湿度は、温湿度計を参考に職員が快適な状態になるよう調整している。換気は1時間ごとに実施している。共有の廊下には絵画や観葉植物を飾り付けている。リビングには、習字や季節の貼り絵などの作品、利用者の紹介写真を飾り付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配席やテーブルの位置などはお客様の状況に合わせて変更しながら対応できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家財など馴染みあるものを用いれて、安心できる空間になるようご家族様と話しながらお部屋レイアウトをしている。	居室には、ベッド、エアコン、照明器具、クローゼット、ハンガーレールの他、スタッフコールも備え付けられている。テレビ、人形、タンス、椅子、机、カレンダー、家族の写真などの馴染みの品や思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。安全対策として、家族の同意を得て、離床センサーを使用している利用者もいる。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどを配置して、安全に歩けるようにしている。他に、転倒の危険性があるお客様にはセンサーコールなどを使用し、安全に配慮している。		
----	--	---	--	--	--

事業所名	リフシア大庭
ユニット名	2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員は入社時に理念について学ぶ機会を設けている。非常勤職員の方々には管理者より理念について説明を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防により、今現在地域との交流はあまり持っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様と寄り添いながら行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年に入り、ほとんどが書面開催となっており、話し合いの場面が持っていない		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、連絡を取るようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会の中に身体拘束研修を通じて勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル、事故防止委員会を通じて学ぶ機会を持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明を行い、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、直接相談が多い。改善に向けた取り組みはしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、各月での社員会議を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を各月で行いながら意欲を引き出せるよう関わりを持っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として目標管理などの制度があり、個別に作成し育成のツールとして使用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部での勉強会等、参加を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受入時のアセスメントをユニットで共有して早期の信頼関係構築が出来るよう意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受入時、その都度、ご家族様との相談事を聞き取りながらその情報を現場と共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービス内容や支援は受入時、1か月間のアセスメント期間を経て再度見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を保てる関わりを意識している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議などでご家族様の意見を聞く機会を持ち、時折り電話連絡などによって関係の構築をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや、会話を通してコミュニケーション機会を確保している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて持っていく方向で検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	関わりの中で支援内容は随時検討変更している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	完全ではない。受入時、最大限の聞き取りは意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを行える支援を行うよう指導している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスを行い、その時の状況に即した計画内容になるよう、現場、計画作成担当で意見を交換し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	主観を交えない記録をとり、その状況を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別での柔軟なサービス提供はご家族様とも連携して行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりが十分に持っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療先は紹介が行いやすく出来るよう2つの提携先を用意。元々のかかりつけ医の方が良い場合はそちらを優先させて頂いている。その後も、関わりはもち進めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週6日の看護職員配置を行い、緊急連絡体制も作成している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係機関やご家族様とは受入時から説明を行いながら、訪問診療などとも連携して行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制については構築できている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域とのつながりは十分ではない。災害対策については自事業所内、法人での訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントを行いながら、自己決定場面や有する能力把握を行えるよう意識して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	十分ではない人員の中で出来る限りのお客様本位を意識してケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントを行い出来る範囲は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	把握を行いながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科とも連携しながら口腔状態の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎月の会議の中で相談しながら、行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	間隔の把握を看護とも連携しながら見て対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お客様間で入浴時間をシェアする為、曜日や時間帯は目安として決まっているが、出来る限り、入浴を楽しめるように入浴剤や湯舟に浸かる時間などに配慮させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	関わりを持ちながら入床を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のシートは職員間にて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様と以前のご様子などを聞き取りながら楽しみある日常が送ることが出来るよう工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが流行ってからは控えているが、リハビリ目的の近隣へのウォーキングなどを行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は控えていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の訴えがあった場合にはこちらがご家族と間に立ちお話し出来るよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる飾りなどを皆様と作成しながら、空間を温かみある空間にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配席やテーブルの位置などはおお客様の状況に合わせて変更しながら対応できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家財など馴染みあるものを用いれて、安心できる空間になるようご家族様と話しながらお部屋レイアウトをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどを配置して、安全に歩けるようにしている。他に、転倒の危険性があるお客様にはセンサーコールなどを使用し、安全に配慮している。		

目標達成計画

事業所 リフシア大庭
作成日 2021年8月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅲ 13	災害対策 夜間訓練 水害時訓練	夜間時の災害にもしっかりと対応出来る様になる。	夜間想定訓練を行う。 水害時対策訓練を行う。	2021/9 ～ 2022/3
2	V60	戸外への外出	コロナ明けに、外出機会を徐々に増やしていく	フロアミーティングにて日時、人員など決めていく。	2021/9 ～ 2022/3
3	Ⅳ 15	栄養摂取や水分確保の支援	一日水分 1500ml を目標に脱水を回避しながら、栄養摂取を支援する	アクエリアスや水分ゼリーなど飲みやすい物で摂取促す	2021/9 ～ 2022/3
4					